

学校教育目標	「自分をのびし 友達と認め合いながら 地域とともに歩む」 ○主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育みます。【知】 ○自他を大切に自分を律する態度と人を思いやる優しさを育みます。【徳】 ○体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。【体】 ○地域や社会のために、まわりの人と協働する力を育みます。【公】 ○自分を見つめ、多様性を尊重し、共に生きていく力を育みます。【開】				
	創立 49 周年	学校長 森下 誠	副校長 江目 典子	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 319 人 主な関係校: 釜利谷中ブロック(釜利谷小、釜利谷南小)、大道中ブロック(大道小、朝比奈小、六浦南小)、六浦小				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力	釜利谷中 釜利谷小 釜利谷南小 高舟台小	人とのかかわりを大切にし、集団の中で、 お互い認め合い、高め合おうとする子ども ○「人とのかかわり」[生きるための学び]「心と命」を大切にしたい指導を、全校の教育活動で具現化するように相互の情報交換を充実させ、意図的な場面設定を図る。 ○児童・生徒の実態を把握し、子どもの思いを汲みながら「育成を目指す資質・能力」、「重点的取組分野」等に関する共通理解の推進を図る。 ○小中連携をさらに推進させて、小中合同授業研究会の開催や児童生徒交流日の充実を図る。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートの結果をデータ分析し、子どもたちの現状を捉え直し、より有効な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。 ○子どもが自分や友達よさを認め合い、自尊感情を高めることのできるように、子どもの思いを受け止めた指導や支援をします。 ○ひと・まち・自然等との関わりを深める多様な活動を推進することで自己有用感をもてるようにし、子どものコミュニケーション力を高めます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 自発的・主体的に 行動できる力	①子どもが獲得した知識を活用できるよう、知識の定着を目指す授業展開を行う。同時に、獲得した知識や技能を次の活動につなげていく年間計画を立てる。②昨年度の重点研究で「自発的・主体的に行動できる子どもの育成」を掲げて取り組んだ。子どもたちの得た経験をさらに生かすために、子どもたちの興味・関心をより高め、授業に意欲的に取り組めるようにする。
徳 豊かな心	①互いに認め合える温かい学級風土づくりを目指し、YPアセスメントや横浜プログラムの活用を図る。②命の大切さにふれる学習を充実させることで、自分や周りの人を大切にしようとする気持ちを育む。③進んであいさつをすることや互いに認め合える関係づくりの取組を子ども主体で計画する。
体 健やかな体	①体育の授業や運動委員会の児童の活動を通して、年間を通して様々な運動に親しむ環境を整え、子どもが主体的に体力向上を図れるようにする。②食育部を中心に、給食目標や給食週間を設定し、好き嫌いをなく食べることの習慣を身に付けたり、子どもが食の大切さを考えるための取組をしたりしながら実施する。③子どもがデータから自分や学校の状況を理解することで、主体的に健康な生活を実践できるようにする。
公 開 地域連携	①学校運営協議会と連携し、地域・社会とつながる学校づくりを進める。②地域の方と関わる機会や方法を工夫していく。地域の方と子どもたちとの交流の機会となるよう「スマイルクリーン作戦」、地域防災訓練を実施する。③生活科や総合的な学習の時間では子どもの実態や願いを明らかにしながら、子どもの興味を大切にして学習を展開していく。また、地域の「材」について、子どもたちが主体的に関わりたり取り組んだりできるように教材研究を進める。
いじめへの対応	①児童・家庭・地域の実態を把握し、子どもの思いを大切に児童が安心して力を発揮できる集団を育てることで、いじめの未然防止に努める。②いじめ防止対策委員会を中心とした全職員による情報共有と、早期対応、確実な事後指導を組織的に行う。③アンケートや教育相談を定期的に行い、児童が相談しやすい環境を整える。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①年間授業時数の見直しに伴う週時数削減で職員の午後の時間の確保ができています。その時間をより有効に使い、学年やブロックでのタブレット端末を用いた教材研究を計画的に進めるようにする。②校務分掌において、所属していない部署の仕事を可視化することで、少しでも多くの仕事を知ることができるようにする。常に複数人で仕事を進められるように組織的な働き方の形を定着させる。
コミュニケーション能力	①なかよしタイム(たてわり活動)を通して他学年と関わる経験をする中で、コミュニケーション能力を育てる。②子ども主体で計画された総合の発表会など、様々な場面で自分の考えや学習したことを伝える活動を通して、自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶ。③幼保小では、毎年幼稚園との交流を通して、自立心を養う機会をもてるようにする。
授業改善	①単元ごとに育成したい資質・能力のポイントを明確にし、授業を進める。振り返りにはタブレット端末を用いることで、フィードバックのスピードを上げる。同時に、獲得した知識や技能を次の活動につなげていけるように指導する。②重点研究で「自発的・主体的に行動できる子どもの育成」を掲げて取り組んでいる。子どもたちの得た経験をさらに生かすために、子どもたちの興味・関心を解決する学習を進め、授業に意欲的に取り組めるようにする。
児童生徒指導	①「子ども手帳」の内容を中心に指導事項を共通理解し、一貫性と継続性のある生活指導を行うことで、児童が落ち着いて学校生活を送れるようにする。②YPなどを活用し、多角的な児童理解をもとに児童の自己肯定感を高めるとともに、児童が安心して力を発揮できる集団を育てる。③研修を通して発達支持的かつ未然防止教育に重点をおき、組織的に児童の課題に適切な指導・支援を行う力を高める。
特別支援教育	①特別支援教育委員会を中心に、支援を要する児童の実態を丁寧に把握し、個に応じた支援の在り方を考える。個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用の仕方についての共通理解を図る。②特別支援教室を有効に活用する。一人ひとりにあった支援や活用方法を学校、家庭、本人と相談しながら本人の思いを大切にしながら決定し、支援と指導を継続的に行う。③コンサルテーションや研修を実施し、教室の中でできる特別支援について高め、実践していく。